



- 昼夜放牧による省力化・低コスト肉用牛生産
- 4つの牧区で効率的な放牧
- 放牧できた牛舎の空きスペースを有効活用

1 地域の概要

香美町は兵庫県北部但馬地域に位置しており、町の中心を南北に横断する矢田川水系に沿って、耕地や居住地が形成されている。また、内陸部は1,000m級の山々に囲まれており、林野が約86%を占めている。

気候条条件は日本海型気候で年間を通じて降水量が多く、降水日数は180日にもおよび、特に冬期には積雪が2mに達することもある。

平成17年度の耕地面積は1,660ha（田1,270ha、畑392ha）となっている。

平成17年農業粗生産額19.1億円のうち、畜産が7億円（36.7%）を占めている。

平成18年2月1日現在の家畜飼養頭数は肉用牛1,600頭となっており、但馬牛の一大産地となっている。



2 取組の経緯

美方郡では以前から集落の共同放牧場での昼間放牧が盛んであったが、その後、多頭飼育が進むにつれて放牧は衰退した。

昭和61年度から平成2年度にかけて、「但馬区域畜産基地建設事業」で山林となっていたかつての放牧場を開発整備し、県内最大の本格的な昼夜放牧が始まった。

当初は集落の畜産農家を中心に放牧が始まったが、集落から畜産農家がなくなると、町内を中心に希望する農家を受け入れ、共同放牧場として監理されて現在では他の事業等を活用し、約30haの放牧地となった。

適正に管理が進められてきたものの雑木の繁茂や降雪による古ガードレール柵やバラ線柵の老朽化など課題もあったが、その整備も進め、現在に至っている。

この間、牛肉輸入の自由化や但馬牛子牛価格の低迷、我が国でのBSEの発生などさまざまな困難があったが、放牧や牛舎の増設などにより、繁殖和牛農家の規模拡大が進んだ。

また、糞尿処理にかかる労働時間の増加や乾草等の購入にかかる飼料経費の増加が課題となっている中で、省力化及び低コスト化が可能な飼養管理として放牧が定着している。



【放牧風景】

3 放牧の概要及び特徴

耀山畜産組合は4戸の畜産農家で構成されており、307頭の肉用牛（但馬牛）を飼養している。

放牧地面積は30haで、6月中旬から11月中旬にかけて50頭を昼夜放牧している。

放牧場は4つの牧区に分割しており、転牧することで効率的に牛に草を食べさせることが可能となった。

また、雑木の定期的な伐採を行うことで、牧養力の向上を図っている。

放牧場は、国庫事業の生産振興総合対策事業や県単独事業の但馬区域畜産基地建設事業等を活用して整備した。

放牧場の管理は組合員全員で行い、飼料作物の作付、雑木の伐採などの野草地管理、1日1回の頭数確認等を行っている。

4 放牧の効果

繁殖和牛経営の規模拡大や肥育経営の導入などが可能になった。

さらに、牛舎の有効活用ができ、優れた子牛の出荷や放牧牛の分娩が安産になり、繁殖成績が良くなるなど生産性の向上が見られる。また、定期的に雑木の伐採を実施しているため、地域の環境保全にも貢献している。



【放牧風景】



【放牧風景】

執 筆 協 力・問い合わせ先	
豊岡農林振興事務所農業振興課	湊
T E L : 0796-23-1001	